

環境研究総合推進費

「釧路湿原にて超高密度化状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術」

平成 27 年度事業計画（案）

昨年に引き続き 3 つのサブテーマが連携して釧路湿原におけるシカ管理の戦略と戦術を練るための研究を遂行する。

サブテーマ①「時空間利用と植生・土壌環境への影響評価」 酪農学園大学 分担

生体捕獲と発信機の装着およびシカの位置データの取得を継続し、越冬地を抽出する。27 年度は新たに 10 頭の捕獲を 26 年度の捕獲位置（右岸堤防、コッタロ）以外の場所で予定している。日周行動を解析し効率的に捕獲ができる時間帯を明らかにする。土壌生態系への影響を測るために、26 年度にサブテーマ②と共同で設置したシカ排除柵の内外で土壌サンプリングと化学分析を行う。

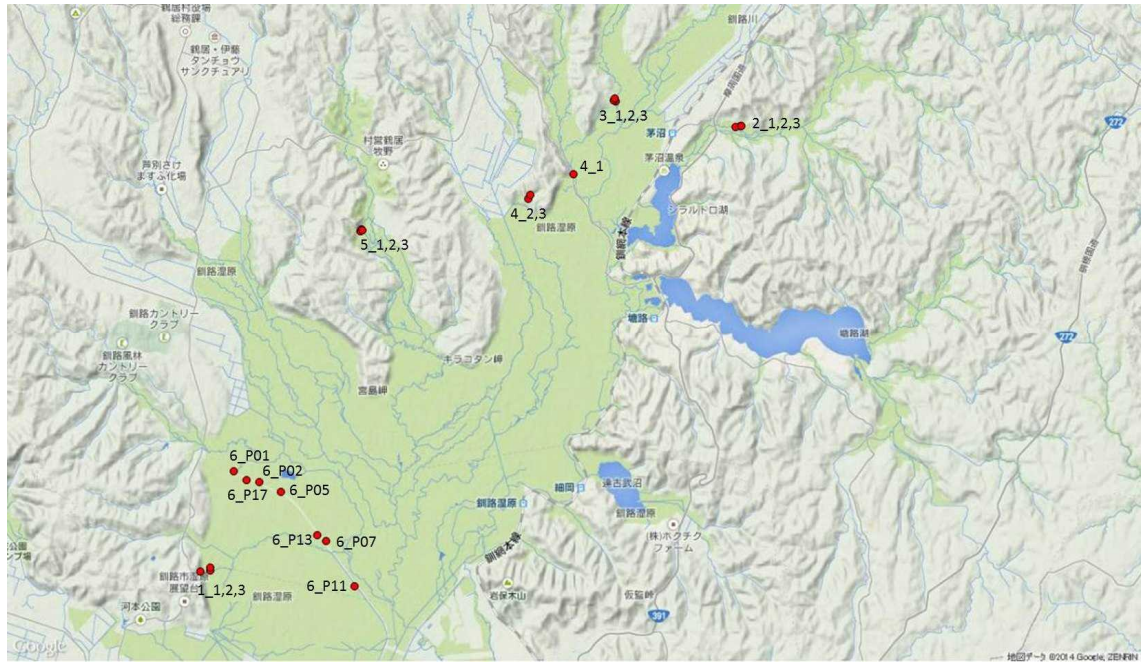
サブテーマ②「生物多様性保全を可能とする広域個体群管理」 北海道総合研究機構 分担

平成 26 年度に継続して航空機調査を実施し、湿原・森林域のシカの生息地選択を明らかにし、前年に整備した生息情報に基づき湿原周辺の分布・密度構造の変化を明確化する。湿原内及び周辺にサブテーマ①と共同で設置したシカ排除柵（別紙参照）において植生調査を継続実施し、湿原および湿原周辺の植生へのシカのインパクトを明らかにする。希少鳥類（タンチョウなど）の湿原の利用状況を把握してシカの捕獲適地の抽出を試み、希少鳥類保全に配慮したシカ捕獲手法の検討を行う。

サブテーマ③「地域住民・市町村での情報共有および協働による湿原保全と個体数管理手法の検討」 釧路公立大 分担

サブテーマ①と②で明らかになったシカの行動範囲と広域の密度から、シカの広域管理に参画すべき市町村および関連機関をリストアップし、協働するための課題を抽出する。地域住民のステークホルダーにヒアリングし、地域からのニーズを明らかにする。サブテーマ①②と共同で、湿原域での鳥類保全のためのシカ管理に携わっている専門家を海外からの招聘しワークショップを開催する。

別紙



シカ排除柵位置図